

(第6条関係)

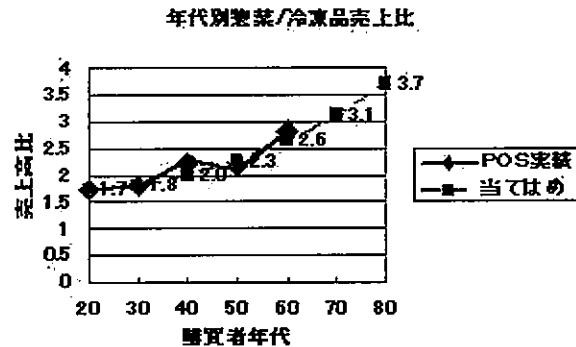
## 事業計画書

事業名	「自炊者の常用レシピ-母の味-」を広く市民に配布する事業
団体名	数値調理会

取り組もうとする松戸市のテーマ(課題)

松戸市では「健康寿命の延伸」を課題としている。高齢化に伴う健康維持上の問題点を追求し、その対策を行政面で計画的に進めているが、健康維持の観点から一部高齢男性の食の知識・技術の不足を感じる。男女に限らず高齢者は自炊できなくなり、購買品に頼る傾向が松戸市でも見られる。数値調理会・老後の不安を一つ消し隊がデータ分析を行った。

松戸市某スーパーの売上データから食品購入の年齢効果すなわち高齢化に伴い食生活が偏ることがわかる。



調理を要する冷凍品よりも、塩分の濃い惣菜でも便利さが高齢者に好まれる傾向を持つ。

次に性別を絞ると松戸市では生活習慣病である高血圧症+糖尿病の受診者が男性に多く、人口比受診率は女性の2倍になる。

一方その解消策となる保健福祉センター健康教室の受講者は女性の1/4と低く、食の改善意欲の低さが目立つ。健康寿命は延伸しつつも平均寿命の伸びに劣れば、差すなわち老後医療期間が伸びる。男女平等に対処することは、数理的に不公平となり、「健康寿命の延伸」が達成困難になる。

年収590万円未満の年金生活者世代男性の73%が健康的な食事を作れないことに不安を持つという調査結果があった。今や家事見習いを高齢化に伴いシルバー修業に組み入れるべき時だが、そのコンセンサスが市内に充満しているとは言い難い。

成人の食の修業、すなわち食の知識・技術習得が必要であることは岩村暢子氏や村上伸子氏とう識者が指摘している。

食事が作れずに威張り散らす自立できない高齢男性が減少すれば、女性のうつ病、認知症防止にも役立つ。ジェンダー対等な男女共同参画の高齢者核家族は対等な調理能力を持つ必要がある。

事業の目的	<p>高齢男性に男目線のレシピを提供し、食の改善、ひいては男女合計でも生活習慣病が減少することを期待する。</p> <p>レトロな味で迅速簡便な最新調理器具を活用するレシピ開発を行い、必要な市民に無料配布する。</p> <p>内容は「誰でもいつまでも」(80歳代男性でも)作れる調理、おふくろの味「ご飯、卵にお味噌汁」レベルで第1歩を経験し、レシピ全体で週間献立を可能にする。</p> <p>料理の新たな効用指標を案出し、レシピ唄に結実させた結果、永く(30年くらい)調理を記憶させることが可能になるはずである。唄になれば情動*2)が働き、忘れ難くなる。</p> <p>商業的には成立しないレシピ集であり、ボランティア活動、自治体の助成を必要とする。</p>																					
事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>① 購買・調理の基礎用語および レシピを栄養士による監修を経て、男性心理に優しく男目線で編纂し、印刷する。</p> <p>② 編集・印刷後、チラシ百部を作成し、松戸市のいきいきクラブ・健康教室ほか公的窓口に無料提供すべく宣伝する。</p> <p>③ サポセン調理室(電子レンジ利用可能)でシルバー実演頒布会3回を会費500円にて開き、レシピ唄*1)の普及に努める。</p> <p>④ 数値調理会会員対象に一口100円募金を行い、400口(予約確保済み)を抛出する。</p> <p>2 スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="507 1128 1382 1559"> <thead> <tr> <th></th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月</td> <td>レシピ選定完了</td> <td>約16種</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>試作撮影会完了</td> <td>電子レンジのある市民センター</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>チラシと料理集完成</td> <td>収納場所(数値調理会事務所)</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>配布予定先からの受注開始</td> <td>電話他連絡し需要開拓 FAX、Eメールで受注確定</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>料理集配布完了</td> <td>配布先への配布停止通知</td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td>清算整理</td> <td>数値調理会事務所</td> </tr> </tbody> </table>		具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	6月	レシピ選定完了	約16種	10月	試作撮影会完了	電子レンジのある市民センター	11月	チラシと料理集完成	収納場所(数値調理会事務所)	12月	配布予定先からの受注開始	電話他連絡し需要開拓 FAX、Eメールで受注確定	2月	料理集配布完了	配布先への配布停止通知	3月	清算整理	数値調理会事務所
	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など																				
6月	レシピ選定完了	約16種																				
10月	試作撮影会完了	電子レンジのある市民センター																				
11月	チラシと料理集完成	収納場所(数値調理会事務所)																				
12月	配布予定先からの受注開始	電話他連絡し需要開拓 FAX、Eメールで受注確定																				
2月	料理集配布完了	配布先への配布停止通知																				
3月	清算整理	数値調理会事務所																				
既存の事業からステップアップする部分																						
事業の目標	1. レシピ配布 500部 (送料は 当会負担)																					
今後の展望	<p>1. 数値調理会 入会者の増員により、定期的に実演頒布会を実施し、高齢市民に内在する調理技術の男女間格差是正を目指す。</p> <p>2. レシピ唄に2番、3番を開発し、普及に努める。</p> <p>3. 既存電子レンジ活用に関し電気調理器メーカーとの提携を探る。</p>																					

\*1) レシピ唄 1番歌詞

「ご飯、玉子にひきわり納豆、ヨーグ(ルト)、小松菜胡瓜揉み、かぼちゃ干物にシントウ焼き、蒸し茄子玉葱豚ブロックリー、七菜サラダ鯖味噌煮、豚なすピーマンしめは肉じゃが」

\*2) レシピ唄を聴いたお婆さんがよだれを垂らした事例から情動を誘う効果は明らかである。

(第6条関係)

### 事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

科目		金額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 40,000	本会会員の1口100円募金*400口(予約済み)により拠出する。
	事業収入	¥ 30,000	500円(参加料)*60人(延べ人数)
	自己資金の合計額(A)	¥ 70,000	
市	市民活動助成金(B)	¥ 100,000	
合計額(C) = (A+B)		¥ 170,000	

【支出】

科目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 30,000	外部監修者謝礼 30,000円*1回
	消耗品費	¥ 13,002	実演用食材 4,334*3回
	印刷製本費	¥ 121,240	500部+チラシ1000部 冊子120,440円+チラシ800円
	使用料	¥ 2,960	サポセン調理室 370円 8時間
	通信費	¥ 2,158	
	対象経費の合計(D)	¥ 169,360	
その他経費	食料費 @320*2名	¥ 640	実演頒布会のキックオフ反省会320*2名
	その他経費の合計(E)	¥ 640	
合計額(F) = (D+E)		¥ 170,000	

#### 【チェック項目】

- 1 助成金(B)が、対象となる経費(D)欄の90%以内であること。
- 2 自己資金(A)欄が、「対象経費(D)欄の10%以上」であること。
- 3 助成金(B)が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。